

# あらかわの伝統工芸技術が海外へ — ウィーン市で「荒川展」開催 —



「荒川展」のポスター



作品を見学する中学生



レセプションで披露した寄席文字

荒川ふるさと  
文化館だより

荒川区教育委員会  
荒川ふるさと文化館  
荒川区南千住6-63-1  
TEL 03(3807)9234  
登録(28)0065号

伝統工芸技術保存会が職人派遣  
平成 28 年 5 月、オーストリアの首都  
都 ウィーン市ドナウシユタット区  
との友好提携 20 周年を記念し、「荒  
川展」を開催しました。この展示は、  
荒川区の代表的な文化財である伝  
統工芸技術を通して、文化交流を  
深めることを目的とした催です。  
荒川区伝統工芸技術保存会推薦の  
会員・荒川の匠育成事業の研修者  
5 名が派遣され、12 名の職人さん  
が作品展示で参加しました。

ウィーン市民を魅了した「荒川展」  
5 月 12 日に、日本文化の研究拠点で  
知られるウィーン大学、翌 13 日に、  
ドナウシユタット区のノイエ・ジュ  
ニア・ハイスクールを会場とし「荒  
川展」を行いました。出演したのは、  
荒川区伝統工芸技術保存会会  
員、彫金の田村尚子さん、荒川の  
匠育成事業の研修者、勘亭流文字・  
寄席文字・江戸文字の銘苅由佳さん  
(指導・中村泰士氏)、漆塗の塚本  
真理恵さん(指導・角光男氏)、指  
物の渡辺久瑠美さん(指導・渡辺  
光氏)、木版画摺の小川信人さん(指  
導・川嶋秀勝氏)の 5 人の職人さん。  
市民の前で伝統工芸の技を披露し、  
体験教室の指導、解説を行いました。  
入場者数は、延 1700 名を  
数え、大盛況でした。

記念式典で技を披露  
12 日夜には、  
友好提携 20 周年 レセプションが盛  
大に開かれました。ドナウシユタ

ツのパンフレット等の翻訳と市民と  
職人との橋渡しの通訳は、インタ  
レンシップで来日を予定していた  
荒川区伝統工芸技術保存会推薦の  
会員・荒川の匠育成事業の研修者  
5 名が派遣され、12 名の職人さん  
が作品展示で参加しました。

ウイーン市民を魅了した「荒川展」  
5 月 12 日に、日本文化の研究拠点で  
知られるウィーン大学、翌 13 日に、  
ドナウシユタット区のノイエ・ジュ  
ニア・ハイスクールを会場とし「荒  
川展」を行いました。出演したのは、  
荒川区伝統工芸技術保存会会  
員、彫金の田村尚子さん、荒川の  
匠育成事業の研修者、勘亭流文字・  
寄席文字・江戸文字の銘苅由佳さん  
(指導・中村泰士氏)、漆塗の塚本  
真理恵さん(指導・角光男氏)、指  
物の渡辺久瑠美さん(指導・渡辺  
光氏)、木版画摺の小川信人さん(指  
導・川嶋秀勝氏)の 5 人の職人さん。  
市民の前で伝統工芸の技を披露し、  
体験教室の指導、解説を行いました。  
入場者数は、延 1700 名を  
数え、大盛況でした。



漆の下地練り体験の順番を待つ大学生

ツの子供たちによるクラシックコンサート、寄席文字と木版画  
のパントマイム等の翻訳と市民と  
職人との橋渡しの通訳は、インタ  
レンシップで来日を予定していた  
ウイーン大学日本語学科の学生さ  
んにお願いしました。お世話にな  
ったウイーン大学学生が夏に来日  
した際に、職人さんの工房を訪ね  
たり、寄席を観覧したりと更に交  
流を重ねたそうです。

平成 32 年(2020)、東京オリ  
ンピック・パラリンピックが開催  
されます。世界各地の人びととの  
縁を結ぶ、魅力的な荒川区の伝統  
工芸技術をこれからも P.R. してい  
きます。

〈野尻かおる〉

伝統工芸技術が結ぶ縁 「荒川展」  
のパンフレット等の翻訳と市民と  
職人との橋渡しの通訳は、インタ  
レンシップで来日を予定していた  
ウイーン大学日本語学科の学生さ  
んにお願いしました。お世話にな  
ったウイーン大学学生が夏に来日  
した際に、職人さんの工房を訪ね  
たり、寄席を観覧したりと更に交  
流を重ねたそうです。

平成 32 年(2020)、東京オリ  
ンピック・パラリンピックが開催  
されます。世界各地の人びととの  
縁を結ぶ、魅力的な荒川区の伝統  
工芸技術をこれからも P.R. してい  
きます。

〈野尻かおる〉



社札にみる江戸の杜会』同成社 一〇〇八  
「参考文献」関岡扇令『千社札一江戸コレク



表とする江戸文字や木版画の影師、摺師など  
の職人たちの技によつて発展してきました。  
表とすると立川氏の孫で、資料寄贈者の桜井氏によれ  
む愛好家や名刺代わりに千社札を作る人も増え  
てきるようです。一枚の千社札を作りえる人によ  
った江戸文化は、職人や愛好家によつて現代に  
引き継がれているといえますよ。

立川氏の孫で、資料寄贈者の桜井氏によれ  
ば、立川氏が札に凝ついていたのは、昭和 20 年  
から盛んに連札や交換札を制作していくようまで  
約 40 年代くらいとのことです。特に 60 年前後か  
扇令追善納札会』(初代扇令の追善供養の運  
命)などに名前を連ねています。また、コレク  
シヨンのうち珍しいものは、大正 12 年の閑  
東大震災で亡くなった仲間の追善供養の札  
など、戦前の札も含まれています。

江戸で生まれた千社札は、勧亭流などを使  
っても広く知られています。

関わり、千社札文化を発展、継承させた存在  
のふたりの「扇令」は千社札の制作にも深くく  
化財保持者は著名な木版画摺師でした。こ  
へ二〇一〇〇八年の功夫氏(元区指定期形治  
初代扇令(明治 16 年へ一九一四年)平成 22 年  
一九六〇八年の仙太郎氏、そして、二代  
彫師の関岡裕介氏が三代目を繼いでいます。  
む関岡家で世襲される号のことです。現在、  
「扇令」とは、西日暮里の木版画工房を當  
多數含まれています。

荒川区に馴染みの深い「扇令」に觸れる札には  
ふたりの「扇令」そしてコレクションには、

川氏は、神田に生まれ育った宮大工で神田  
二〇一六年で、その一部を紹介しました。立

月の館蔵資料展「あらかわのたからもの」  
収集した千社札が多數寄贈されました。8

成 28 年 4 月、当館に立川清氏(明治 28 年  
一八九五九年)と功夫氏(元区指定期形治 28 年  
八九年四月、当館に立川清氏(元区指定期形治 28 年  
一九八一年)が登場しました。

立川清氏コレクションの千社札さて、平

用いられる多色摺の「連札」、同好のグル  
ープの共同制作の「連札」などが登場しました。

技術と結びつき、幕末にかけて大きな発展を  
遂げてきました。その結果、白黒の貼り専用  
の「貼札」、仲間内部で交換や名刺代わりに

「貼札」その後、千社札は木版印刷の  
千社札の種類

技術と結びつき、幕末にかけて大きな発展を  
遂げてきました。その後、千社札は木版印刷の  
千社札の種類



館蔵資料展こぼれ話 ①

宗家は対馬藩（長崎県）の大名です。そのへ移設します。

荒川区社会福祉協議会がある同一丁目13番「宗家屋敷跡」(2) 南千住一丁目15番から

名が使われていることが確認できます。

通新町に変わった時期は定かではありませんが、元禄8年（一六九五頃には、この町

え、元々は北隣の小堀原町から分かれて新町として成立したと推定されます。町名が下谷

年（一六六一）の割付に「小堀原町」とみ三之輪町に統一され、北は千住小堀原町に接して

の通りの両側に形成された町です。南は下谷通りの両側に形成された町です。南は下谷通りに統一され、北は千住小堀原町に接して

「下谷通新町」(1) 国道4号線沿いの南千住一丁目15番に設置します。

中(1)～(3)参照）。以下、説明板の概要を紹介します。

今年度は、「下谷通新町」の説明板を新設

するとともに、「宗家屋敷跡」と「大閑家屋敷跡」の説明板の移設を行います（地図

ではその史実や由来などを区民皆さんにわかりやすく伝えるため、史跡説明板を設置します。

荒川区内には歴史・文化を物語るたくさん

の史跡や文化財があります。区教育委員会で

「下谷通新町」「宗家屋敷跡」「大閑家屋敷跡」

新たに史跡説明板設置と引き越しが

輪の地をめぐつてみてはいかがでしょうか。

でも詳しく紹介します。これを機に三ノ輪

当館企画展「三ノ輪の殿様—あらかわの大名

池田家の屋敷があつたことが知られています。

媛県（現）の加藤家、播磨新宮（兵庫県）旗本の

龜山藩（三重県）の石川家、伊予新谷（愛媛県）には、宗家と大閑家以外にも、伊勢

うになつたのかもしれませんね。

人びとが、交差点に大閑の呼称を用いるよ

代藩主の大閑増業を顕彰するものであることに

書紀の研究や兵法書「止戈枢要」の編纂など

が、隠居後に三ノ輪の屋敷に暮らし、「日本

と明治通りの交差点付近であることが、大閑

大閑横丁は、碑の場所から離れた国道4号線

横丁由来之碑」があります。しかし、実際の

大閑家屋敷跡には、昭和39年（一九六四）

10月銘の大閑横丁史蹟保存会が建てた「大閑

810坪の下屋敷と抱屋敷がありました。

第六瑞光小学校を含む一帯が屋敷跡にあります。

大閑家は下野黒羽藩（栃木県）の大名です。

へ移設しました。

「大閑家屋敷跡」(3) 南千住一丁目13番か

ら都電荒川一中前停留場近くの同一丁目4番

敷がありました。

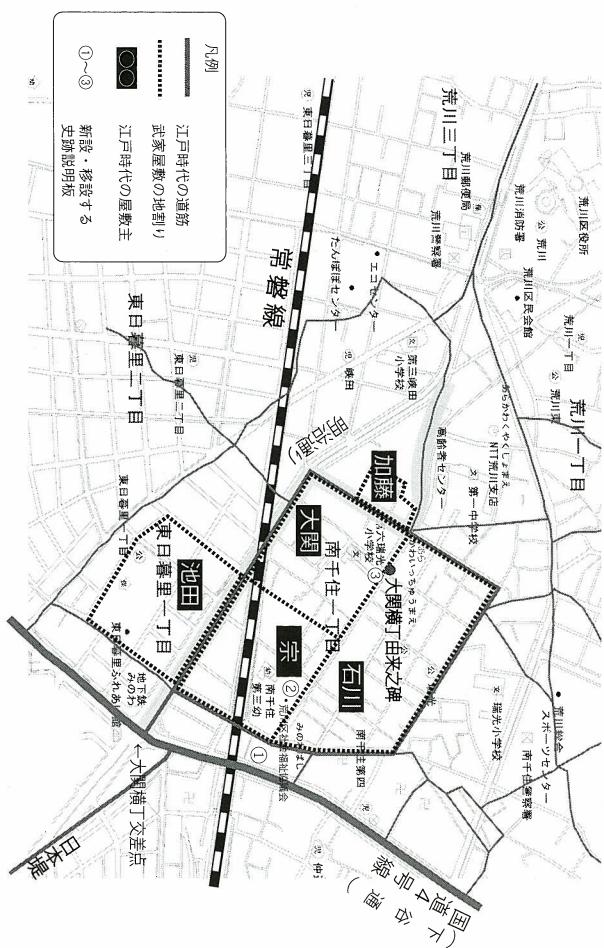
比定地は、都電三ノ輪橋停留場より南側にあ

たり、810坪（約26700m<sup>2</sup>）の下屋

敷があります。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

## 計報



地図 三ノ輪の武家屋敷の分布と新設・移設する史跡説明板